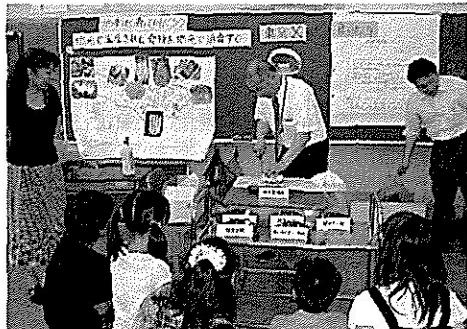


○ 小学校の食育授業でTOKYO Xを紹介、Xの理念、地産池消の大切さを訴える

TOKYO X-Association(アソシエーション、植村光一郎会長)は24日、東京・北区の区立滝野川第六小学校でTOKYO Xの出前授業を開いた。同校の食育授業の一環として開いたもので、TOKYO Xなど地場の食材を知ることで地産池消の大切さや食に対する感謝の気持ちを学んでもらおうとするもの。授業では6年生を対象、植村会長がTOKYO Xの理念「東京 SaBAQ (safety · Biotic · Animalwelfare · Quality)」をはじめ、飼料や畜種の特徴、生産・流通の仕組みなどを分かりやすく解説。「生産段階だけでなく、その先の流通や消費まで繋がっていないと良い商品はできない。TOKYO Xは消費者が欲しい豚肉、つまり“美味しい豚肉”になることを第一に考えて生産されている」と紹介した。さらに、実際にXのロースを使って商品化の工程を披露し(=写真)、児童たちはブロック肉からトンカツ用や生姜焼き用などブロック肉から商品に変わった様子が興味深く見入っていた。また児童からは「何種類の商品ができるのか」「輸出はしているのか」「賞味期限はどの位あるのか」といった質問が相次いだほか、中には「なぜ『X』というのか」「震災の影響はどうか」といった鋭い(!?)問い合わせもあり、植村会長は「『X』は未知の可能性の意味が込められている。常に美味しい豚肉であろうと進歩し続ける願いから

名付けられている」「八戸、石巻、鹿島の3つの生産基地が被害を受けた。特に鹿島港は震災により水深が浅くなり大型船が寄港できず、飼料の供給に影響を受けている」と説明した。植村会長の授業を聞いて、児童からは「普段食べている豚肉がこのように作られていることを初めて知った」



「トレ

ーや真空パックによって賞味期限が異なること、部位やメニューで様々な切り方があることが分かった」といった感想を述べていた。

なお同校では7月から給食にTOKYO Xを導入する予定。その他、新宿区や台東区、墨田区、文京区、荒川区などの小・中学校でもXの導入が広がっており、30校ほどの導入事例があるほか、中には2カ月で1回などペースで定番化している学校もあるという。アソシエーションでは11月にも北区の栄養教諭や栄養士を対象に講演会を開いて、地産池消としてのTOKYO Xへの理解醸成を図る方針だ。

○ 6月第3週の食肉購入量 67.0kgに減少、和牛増加も鶏肉大幅減—振興機構POS

農畜産業振興機構がまとめた食肉小売動向調査(POS情報)によると、6月第3週(6月13日～6月19日)のレジ通過1,000人当たりの食肉購入量は前週比4.0kg減の67.0kgとなった。第3週は、「父の日」でステーキをはじめとした需要増加が期待されたが、和牛が

1.0kg増加したものの、全体的に低調で、特に鶏肉の消費が国産、輸入とも落ち込んだ。

内訳は、牛肉が前週比0.1kg減の微減だが、うち和牛は1.0kg増の3.0kgとなった。豚肉は1.2kg減少、輸入が0.9kg減少した。鶏肉は国産、輸入とも減少し合計では2.9kg減少した。

(単位:レジ通過1000人当たりの購買数量kg、カッコ内前年比%)

	食肉計	牛 肉					豚 肉			鶏 肉		
		計	和牛	国産	豪州産	米国産	計	国産	輸入	計	国産	輸入
11年3月	73.4	11.0	2.4	2.7	4.4	1.5	35.8	25.6	10.2	26.6	22.6	4.0
4月	68.3	11.4	2.2	2.6	4.4	2.1	33.0	23.7	9.3	23.8	20.3	3.5
5月	72.0	11.8	2.4	2.7	4.7	2.0	34.1	24.0	10.2	26.0	22.4	3.6
5月4週	70.0	11.3	1.9	2.8	4.9	1.6	33.1	23.3	9.9	25.6	22.1	3.5
5週	74.9	11.5	2.0	2.8	4.6	2.0	35.4	24.6	10.9	28.0	24.2	3.8
6月1週	79.3	13.1	2.9	3.2	5.0	1.9	36.7	25.3	11.3	29.5	26.6	3.0
2週	71.0	11.4	2.0	3.1	4.4	1.7	32.8	22.8	9.9	26.9	23.9	3.0
3週	67.0	11.3	3.0	2.4	4.4	1.3	31.6	22.6	9.0	24.0	21.7	2.4

※調査対象は全国主要地区の量販店13店舗、11年3、4月は震災により集計可能な店舗のみの数値で連続性はない。5月は通常に。